

第四回 学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 2024年2月19日(月) 13時30分から15時30分まで
- 2 会議場所 芳川小学校 CSルーム
- 3 出席委員 鈴木幸彦、林容子、佐藤祐輔、間宮年弘、犬居和賀代
- 4 欠席委員 鈴木麻里
- 5 オブザーバー 古橋一哲(南陽協働センター)
- 6 学校 澤田正樹(校長)、大石智香子(教頭)、榛葉崇文(CS担当職員)、内田由佳(CSディレクター)
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 内田由佳
- 9 議長の選出

司会の大石から、議長の選出について委員に求めたところ、林委員が本日の議長を務めることを申し出、全員意義なくこれを承認した。

10 協議事項

- (1) 学校関係者評価について
- (2) 来年度の学校運営の基本方針について
- (3) 学校運営協議会の自己評価について
- (4) 夢育やらまいか CS加算分の報告

11 会議記録

司会の大石から、委員総数6人のうち5人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

会長挨拶…今後もこの場で意見が自由に言える会でありたい。

校長挨拶…まる2年たったが感謝。

(1) 学校関係者評価について…資料に基づいて、学校側の説明後の発言

・教員・児童・保護者に分かれているが、保護者はアンケートを厳しい目線で見ている(要望が高い)。共稼ぎ夫婦が多く会話が乏しくなっていることも一因ではないか。子どもと触れ合う時間が少ない。また、子ども同士が集まっていると、自分の子だけでなく他の子との会話から子どもの実態が浮かび上がる。(佐藤委員)

・懇談会の出席率が非常に低いので学校や担任の考えを伝える機会が失われる。家庭と職員の時間を作り出す必要性を感じるという学校側の説明を受け、

「Google Classroom」アプリのように、担任と保護者がやりとりできるしくみやツールがあるとよい。働き方改革はわかるが、できうる限り効率的かつ細やかに担任と保護者のつながりがあってほしい(佐藤委員)

→保護者面談をオンラインでやることは可能。懇談会は、保護者同士の話あいも価値があるのではないかと思う(校長)

→6年になると目線が中学に向いている事もあり、懇談会への参加率が低い。(佐藤委員)

→懇談会の出席率が低いことに対する改善策があるとよい。(犬居委員)

→事前の工夫はできないか。(林委員)

→多忙な人が多い。工夫はいるが、土日に参観会・懇談会を年1回程度で行ったらどうか。(間宮委員)

→最近はず、親同士のつながりが少ないように思う。(幸彦委員)

→保護者が担任と話したことがないと、翌年からこれでいいと踏襲されていく。学校自体に疎遠となり関知しない親が増える。(佐藤委員)

→本読みカードにほんの一言だけ担任が書いてくれることも効果があるのではないか。先生の負担にはなるが意思の疎通は図れるのではないかと。(林委員)

→この「ほんの一言」はとても重要だと思う。週1回でもありがたい。「今週は元気がよかったです。」など。(佐藤委員)

→いじめ防止に向けて具体が分からないと指摘について、学校や担任が示していくことで家庭でも考える機会ができる。具体的な取り組みも分かってもらえる。(佐藤委員)

→日記、特にグループ日記などを子どもたちにやらせることはどうか。保護者も含める。(間宮委員)

→やってみる価値はある。反応をみれば親の関心度等の検証や実態の把握にもつながる。(幸彦委員)

・p38のボランティアの感想を見て、規範意識について心配な感じを受ける。(林委員)

・目指す学校の姿の一つに「元気な挨拶ニコニコスマイル芳川小」があるが、みんながニコニコスマイルになるには、規範意識が必要。(校長)

・先ほど、あるクラスをのぞいたら椅子が転がっていた。調子に乗ってしまうときに、学校ではどこまで許されるのかの境目を学ぶところだと思う。親にとっては、学校が過ごしやすい場所に映っているのでは。(佐藤委員)

・叱ってもらいたい、ここまでならいいのかという試しもみられる。これは規範意識の裏返しでもある。(間宮委員)

・佐藤会長の「椅子が転がっていた」という観点は素晴らしいし、重要だと思った。(林委員)

(2) 来年度の学校運営の基本方針について…プレゼン形式で校長より説明

(説明内容抜粋)

・安全指導を行っていく。

・情報を守る。子どもの心を感じる 考えを学年の教員で共有する。

→自覚、リスク管理、誠実

・花壇…花屋がボランティアとして整備してくれている。子どもたちと一緒にしてくれるのが素晴らしい。教材園のほうも整備。(地域からの支援)

・吹奏楽部…今年度限り廃部。再来年度も陸上大会が廃止。

・楽しい授業…P11の学校だより読み上げ。楽しい授業を宣言する。

p24 学校経営の理念 理想をもって保護者に話したい。発信する必要あり。

p7 グランドデザインを詳しくしたもの

・【知】研修テーマ…学ぶことを楽しむ 楽しい授業づくり。

(以上の説明後の意見)

・地域の中学の保護者等の話。学校だよりの内容がよいという感想をきいた。(林委員)

・教員に素晴らしい授業を見てもらうのもいいし、校内で見せ合うのもいいのでは。上手な先生が来てもらえる制度あって、呼んでみるのも特に若手によい機会になるのでは？ある授業では、最初と終わりの3分しか教員が発言しない。子どもたちの方も、普段発言しない子に譲ったりする。活気ある授業を見た経験があるが、おすすりめしたい。(間宮委員)

- ・ある校長の話であるが、先生を集めて勉強会を開く。先生が子ども役。「勉強部活」があるのも面白い。理想の授業を見せることが、楽しい授業を生み出すために重要ではないか。(間宮委員)
 - ・どの先生の授業が楽しいか、のアンケートはどうか。アンケート結果の楽しい授業と成績との相関はどうかも気になるところである。(佐藤委員)
 - ・子ども側も表面的な面白おかしい授業や教員を必ずしも評価していない。本質的な授業のおもしろさをつかりとわかっている。(間宮委員)
 - ・上手な授業が公開授業としてあった。体育館が会場で、1年生の子が、「今、何について話しているのかだれか教えてください。」と質問すると、他の子が教えてあげていた。主体的とはこういうことではないか。(林委員)
 - ・卒業文集に書く内容は、修学旅行などのイベントが主流だが、楽しい授業を題材にする子どもたちがいる。(間宮委員)
 - ・自分自身にも忘れられない楽しい授業がある。印象深い先生で何十年も記憶に残る。(佐藤委員)
- 協議の結果、全員意義なくこれを承認した。

(3) 学校運営協議会の自己評価について…会長の説明後の意見

- ・来年度の目標にある「ほうがわクスノキ応援団」の活動内容をこれまで以上に発信することについて、麻里委員は、「ほうがわクスノキ応援団の活動報告」の回覧板が協働センター経由で発信できないかと言っていたがどうか(佐藤委員)
 - 活動PRやボラの募集をかけることは協働センターだよりに組み込むことも可能だが、地域の人を対象にするのも可能。学校ができないことを代わりに協働センターがというのではなく、地域と学校の連携の第一歩となる主旨でやりたい。同地区の他校も同じにしなければいけない。年2回ずつなど。(協働センター)
 - 載せていただく方向で、お願いしたい。(林委員)
 - ・南陽中学校に本部の健全育成会だよりに、芳川小はCSを掲載した。(校長)
- ### (4) 夢育やらまいか CS 加算分の報告…学校側の説明
- 全員異議なく、これを承認した。

7 連絡

- ・R6年度 第1回の協議会は 5/13(月)午後1時30分から CS ルームで開催する旨の報告があった。